

第4回 議員定数等調査特別委員会 会議録

日 時 令和7年3月12日（水曜日） 午後3時55分～午後4時43分
場 所 白杵庁舎2階 議員応接室

出席委員の氏名

委 員 長 梅田 徳男 委 員 平川 幸司
委 員 安東 鉄男 委 員 河野 巧 委 員 川辺 隆
委 員 戸匹 映二 ~~委 員 匹田 郁~~ 委 員 吉岡 勲

欠席委員の氏名

委 員 匹田 郁 ※代理として委員外議員 甲斐 尊議員が参加

オブザーバー

議 長 内藤 康弘 副議長 伊藤 淳

説明のため出席した者の職氏名

（ な し ）

出席した事務局職員の職氏名

局長 林 昌英 次長 二宮貴司 書記 原 伸行

傍聴者

（ な し ）

会議に付した事件

1. 議員アンケート結果について
 2. 今後の調査・研究の取り組みについて
 3. その他
-

午後3時55分 開議

協議事項

1. 議員アンケートの結果について

◎ 書記（原 伸行）

（配付資料に基づき説明）

（ 協議結果 ）

- 委員は、議員アンケート結果を確認。また、議員アンケート結果は、議員間情報共有用の資料のみとする。
- 委員会終了後、全議員に議員アンケート結果を議会用タブレット端末モアノートアプリで共有する。

2. 今後の調査・研究の取り組みについて

○ 委員長（梅田徳男）

議員アンケートの結果を踏まえて、調査対象事項を議員定数、選挙公営制度、政務活動費の三つに絞って、取り組んでいきたいと考えている。特に、議員定数については、来年4月に選挙があるなど期限があるので、重きを置きながらの検討となる。

今後の取り組み及び調査について、委員の意見を聞きたい。

○ 委員（意見）

- ・主体性は、議会が持つべきだと考える。情報収集した市民の意見は参考となるとしても、市民の代表である議員が決定すべき。
- ・議員アンケートの結果により、議員の意思確認ができていますので、他市等の動向の調査は行ったとしても、それぞれ議会の状況が異なることから、調査結果によって方向性が大きく変化することはないと考えている。
- ・議員アンケートの結果、選挙公営制度や政務活動費を多くが望んでいることが把握できた。その方向性で進めるべきだと思う。市民の意見などを聞くことで、議員が望んだ方向と異なるものにならないように注意すべきと思う。
- ・今回のアンケート結果である議員の意見を加えて、市民はどう考えるか。他市等の動向などを踏まえて、総合的・総体的に考えて結論をだすべきと思う。
- ・市民の意見を聞けば、その意見を無視した決断はできないので、安易に市民を対象としたアンケートを行うなどとせず、慎重に実施方法を検討すべき。
- ・市民の意見を聞く方法を委員会で検討してきたが、市民を対象としたアンケートを実施すると、時間と労力、費用がかかる。また、議員の役割や必要性などが不明なまま、ただ定数減という回答が想定される。市民の意見を聞く方法として、区長会との意見交換などの方法もあると考えている。あるいは、パブリックコメントなどもある。ただし、市民の意見を聞かずに、結論は出せないと考えている。
- ・他市での決定の経緯を調査し、あわせて市民の意見をどのように取り込んだかを情報収集をして、議員が納得感をもった結論を出すため、もう少し情報収集を検討するとよい。

- ・議員定数を検討した結果の反映の時期は、次回改選時（来年）、５年後の改正時のどちらとなるのか。特別委員会の設置時に結果反映の具体的な時期について、これまで、特に言及はなかった。

⇒（他委員 意見）

- ・検討の結果は別にして、次回改選時のことを含めて議論をしないと納得感が得られない。
- ・本委員会の議論は、次期改選時のものだと思う。その後の定数等については、その時点で別途検討すべき。

（梅田委員長 回答）

- ・本委員会を設置したタイミング、来年に市議会議員選挙があるという事実から、次期改選時の定数について、検討するべきで避けて通ることはできない。
- ・次期改選時以降の定数については、本委員会で定数を定める、または、定数は定めず継続して検討など、様々な選択肢の回答ともなり得ると考えているが、検討は行うものと考えている。

（ 協議結果 ）

- 議員定数のあり方については、次期改選時（令和８年４月選挙）を含めた検討を行う。
- 議員定数等の見直しについては、市民の意見を踏まえて検討するため、次回以降に具体的な方法を協議する。

午後４時４３分 閉会

白杵市議会委員会条例第３０条第１項の規定を準用し、ここに記録を作成する。

令和７年３月１２日

議員定数等調査特別委員会

委員長 梅田 徳男

議員定数の反映についての議論（全文） 参考

今回の反映が次期改選時（令和8年4月）を含むかの議論。

川辺議員が、前回、前々回欠席したこともあり、反映時期について、委員長・副委員長と齟齬があり、議論となった。齟齬の部分の確認にあわせて、意見聴取の方法やスケジュール感など、議論が多岐にわたったこともあり、該当部分については、参考として全文を残すもの。

※（川辺）アンケートに5年後と記載があったため、そのつもりをしていた。

次期改選時とは、は、これまで聞いていない。そんなつもりはない。

※（議長）最終的な検討結果が次期からと出れば、変更すべき。

※（梅田）結果が出ているのに、来年度からはしないとはならない。

※（川辺）そんな話はきいていない。初めて聞いた。おかしい方向で議論しているのではないか。

※（議長）委員の中で理解が異なるのであれば、そこは確認しておくべき。委員長、それぞれの意見を聞いてほしい。

※（梅田）議員定数を考えるために集まっているし、検討結果ができれば即座に反映すべき。

※（平川）ここで意見をださないと悪いと思うので、全員発言してほしい。

※（河野）会派で話しましたが、会派では18名以上。なおかつ、仮に削減となるのであれば、政務活動費や報酬などをトータルに考えないと難しいのではと考えている。

※（梅田）18名であれば、政務活動費はいらないということか。

※（河野）そういうわけではないが、減という結果を急ぐのであれば。5年後に減となるのなら、検討の時間は十分にとれる。

※（梅田）来年度の選挙に影響はしないということか。

※（河野）定数を減にするのであれば、検討が必要かと。議員の意見をまとめた上で、市民の意見を聞く形が良いと思う。議員の考えは聞いておきたい。

※（梅田）市民の意見を聞かずに、議員の意見がまとまると思うのか。

※（河野）市民の意見を聞くのであれば、報酬や政務活動費等も含め、全ての議員の検討結果を示した上で、それについて意見を求める形が良いと思う。

アンケートをするのであれば、議員活動などの実態を知らせた上で行うべきと考えている。ただ、アンケートをしたら、定数や報酬は減らして、他は何もつかないということになりそうなので、まず、議員活動を知っていただいた上で判断が良い。

※（梅田）アンケートを実施すれば、定数減というものになると思う。議員活動と関連している方々との意見交換などを通して市民意見の聴取という方法もあると思う。

※（戸匹）今検討している定数は、来年度のことを指していると思う。5年後の定数のことは、いま議論する必要はない。改選後すればよいと思う。

- ※（安東）戸匹議員とほぼ同意見。隣接自治体も今年の選挙から定数を減らしているのが実態。来年度減らす、減らさないは別としても、来年度のことを含めて議論をしないと納得感が得られない。大きな材料として、市民皆さんの理解を得るためにも、市民のアンケートや自治会長とのご意見を拝聴する必要があると思う。
- ※（吉岡）来年4月の選挙も対象となるのかなと感じている。そうするのであれば、期限を切らないと、それまでにきちんと結果を出す必要があると考えている。仮に減らさないとするのであれば、市民意見聴取もよく考えて行う必要があると考えている。
- ※（甲斐・代理）議会としての意思決定をするために、市民意見をどのように反映させていくかという観点から意見したい。川辺議員のいった、市民の代表として議員が決めるというのもわかるし、だから、市民意見を全く聞かないということはないかと、他市での決定の経緯を調査し、あわせてどのように取り込んだかを情報収集をして、議員が納得感をもった結論を出すために必要なものを考える必要がある。委員長の提案を含め、もう少し情報収集した上で検討するとよいと思う。
- ※（平川）5年後に現在の議員がいるかはわからない。特別委員会を設置した以上、次の選挙に向けて行うべきだと思う。
- ※（梅田）それぞれ意見があるが、資料を確認してほしい。スケジュールを掲載している。9月の月上旬までに委員会で意見をまとめて、全協で報告することとしている。
- ※（吉岡）スケジュールは9月となっているが、来年度を対象とするのか、5年後を対象とするかを決めないと話が全く進まないと思う。
- ※（梅田）来年4月に選挙があるので、それを全く対象としないとはならないと考えている。定数に変更があるかはわからないが、検討に含めるべきと考えている。
- ※（川辺）来年を含めるならそのつもりで検討する必要がある。アンケートに5年後とあったので、そのつもりで回答した。アンケートを再度行う必要があるのではないかと。議員定数を減らすのであれば、それに対し、議員活動への手当を含め検討が必要。市民への意見聴取は、議員と全く異なる意見がでるので、時期や報酬、制度導入を含め、議員内の意見をきちんと決めた上で行うべき。
- ※（平川）アンケート内容は、現状の人数と5年後の人数と聞いているが、再度アンケートを取る必要がありますか。5年後の人数を聞く必要がなかったということか。
- ※（川辺）アンケートを反映した議論をするのか、市民意見の結果を反映して議論をするのか。今言っている、いまするのか、5年後するのか、わからないでは議論ができない。決めて話をしないと。
- ※（梅田）来年やるんで。
- ※（川辺）来年やるというのは、今初めて聞いた。申し訳ないけど、そのつもりというのはあったかもしれないが、来年度変更するために、この会議を立ち上げたわけではないと思う。
- ※（河野）アンケート書くのに、現時点は、次回の選挙と5年後は、その次の選挙という

理解で行っていた。

※（梅田）その理解でよい。

※（川辺）このアンケート結果は重要視すべき、5年後、減らすべきとあれば、継続して検討する必要があるのではと思う。

※（戸匹）今回のこの特別委員会で決めるのは、来年度のことを決めるだけであって、5年後のことは決められないのでは。

※（梅田）決められるか、決められないかを決めればよい。

※（河野）アンケートの回答については、現状とは、現状と来年度のことにについて回答しているのか。

※（梅田）減員する人は、そのつもりだと思う。

※（川辺）現状の人が13人いるということ。アンケート結果は重視すべきだと思う。

※（議長）難しく考えず、議員アンケートの結果は結果、議員の意見はどのように考えていることが分かった。市民の意見を聞いてみれば良いのでは。議員定数を減らせ、報酬も減らせ、政務活動費はもってのほかと、なり得るが、特別委員会として市民の意見を聞く必要はあると思う。検討結果を、来年の選挙に反映させる、5年後の選挙から反映させるというのは、特別委員会で決めることだと思う。

※（梅田）市民意見を参考として決めればよいと思う。決めてもいいし、決めないことを決めてもよいと思う。

※（議長）5年後をこの委員会で決めてもよいと思う。

※（川辺）それならば、公営制度と政務活動費の導入と、報酬の増額をセットで定数減ならば理解ができる。

※（議長）5年後に定数を16名にするから報酬を増額するなどの答えがあったもよい。

※（梅田）ただ、報酬の範囲については、我々が決定できることではない。

※（議長）5年後の定数の方向性を決めることは可能だと思う。

※（梅田）1年後についてはその前に答えを出す必要がある。

※（議長）1年後は皆さんで協議して、18人でいくというのであれば、それでよい。

※（川辺）ここで、公営制度及び政務活動費を導入しようと結論ができれば、実現は別としてもそれに向けて取り組むということではよいのか。9月議会までにやるということではよいのか。今の段階で、いつから導入するかを決めておくべき、来年度から導入するのか。5年後に導入できるよう取り組んでいこうでは、スケジュールが全く異なる。

※（梅田）仮に来年やりましようとなればやればよいのでは。

※（川辺）特別委員会発足当時は、議員定数についての議論をはじめようだったと理解している。継続審議でよい話だと思っている。

※（議長）結論が継続審議となればすればいい。

※（川辺）しかし、委員長発言で、来年からやると言っているのが、それはちょっと拙速かなと思う。委員長が委員の意見を聞いて取りまとめて発言するのは良いが、自分が

- こうしたいと言っているのです、少し待ってくれと感じている。
- ※（梅田）委員会できたタイミングからも、来年市議選があるという事実から、そこをどうするかは同じ数字になったとしても検討すべき、避けて通ることはできない。
- ※（平川）川辺委員、これまで欠席されていましたか。最初かいるでしょ。なぜこんなに意識がちがうのか。
- ※（川辺）アンケートで、5年後のことを聞いていたので、そのつもりだった。来年の選挙はこのままの人数で行くという前提で話していた。なぜそこを変えるのか。
- ※（平川）この特別委員会を設置したということは、5年後のことではなく、次回の選挙の定数から検討するということではなかったのか。
- ※（川辺）そんな説明は受けていない。あなたたちが、そっちの方向にもっていこうという風な印象を受けた。僕は。アンケート結果をみたところ、現在、来年の適正人数は、18名となっている。
- ※（議長）そっちの方向に思っていないが。
- ※（川辺）俺はそう思ったが。話がおかしい。継続審議でもいい内容だと思う。
- ※（平川）最初から、継続審議というのはおかしい。
- ※（吉岡）他市では、無投票などがあった場合、自治会などから議員定数を減らすよう要望があることがある。臼杵市議会では、そのような要望がある前に、行動しようとしていると考えている。
- ※（川辺）この特別委員会を始めるにあたって、自治会などからそのような要請はうけたのか。
- ※（吉岡）受けていない。受けてから動くのではなく、先に議論をすべき。
- ※（河野）今までの議論を聞くと、アンケート結果もそうだが、次の選挙は18名で、そのあとは、ちょっと減らそうかなという印象を受けた。アンケートを見るとそう感じた。また、5年後には、定数を減らし、議員報酬の増額を求めるよう感じている。そのパターンと、自分としては、人数を増やして報酬を下げる、民意をいろいろな意見を聞くパターンも考えられれば。
- ※（梅田）それは考えられない（笑）
- ※（川辺）おれもそれは考えられんわ（笑）
- ※（議長）そういう意見もあってもいい、議論の中で却下されることはあったとしても、意見はあってもいい。
- ※（梅田）それはその通り。
- ※（安東）来年を目指してやるということでよいのか。
- ※（梅田）そうです。検討する。いろいろなご意見はありますが。報酬を減らすことで、若い人などは立候補しにくくなるのではないかな。
- ※（吉岡）常勤ではなく、議員の副業が認められていることもあり、その選択肢もあるのではないかな。

※（平川）一般質問の後で、少し疲れが出ているのは。

※（川辺）疲れなどない。いろいろな意見がでていい協議ができている。いろいろな意見をまとめてくれればよい。

※（梅田）スケジュールの確認。9月上旬までに結論付け、委員意見の集約を行いたいということを意識してほしい。来年のことなどを考えるとすると、そのようなスケジュールとしたい。次回の協議は、一般質問で疲れていないときにやりたいと思う。貴重なご意見ありがとうございました。